

習志野市ガス事業中期経営計画(第3次)・習志野市水道事業中期経営計画(第3次)の達成状況評価【概要】

習志野市企業局では、平成27年度から令和元年度までの5年間を計画期間とする「習志野市ガス事業中期経営計画(第3次)」及び「習志野市水道事業中期経営計画(第3次)」に基づき、施策を推進してきました。

【中期経営計画(第3次)の策定目的と基本理念】

中期経営計画(第3次)は、都市基盤の強化及び将来にわたる持続可能な事業経営に資することを目的として策定し、以下の基本理念を掲げています。

- ① お客様に信頼される公営企業を目指してまいります。
- ② 低廉な料金水準を維持し、まちづくりと福祉の向上に貢献します。
- ③ 技術の習得と継承をととして、安全で安定したガス(水)の供給に努めてまいります。

計画の主要施策に対する評価を、別紙「習志野市ガス事業中期経営計画(第3次)達成状況評価表」及び「習志野市水道事業中期経営計画(第3次)達成状況評価表」のとおり実施しました。

1. 計画期間における取組の総括

この5年間に於いて、ガス事業では、計画的なガス導管の更新工事により、耐震化率の向上を図ることができたほか、水道事業においても水道管路の耐震化に加え、第1給水場の更新と第4給水場の建設が完了し、更なる安定供給の推進が図れたものと考えています。

これらに加え、多様な研修を実施・活用することで技術の習得と継承に取り組みました。

このような施設更新や人材育成への投資を進めた上で、経営状況において経常収支比率[※]は100%以上を継続し、低廉な料金を維持した点においても、計画の策定趣旨である「都市基盤の強化及び将来にわたる持続可能な事業経営」に、両事業とも資することができたものと考えています。

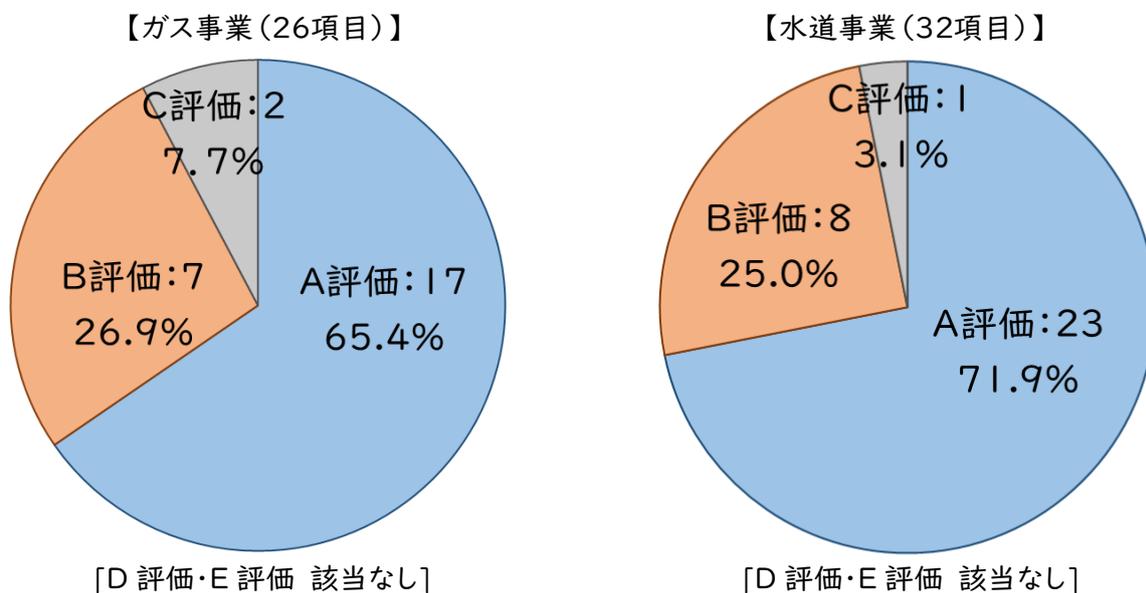
一方で、計画期間中に於いて、ガス事業では大口需要家への販売量が減少傾向であったことに加え一部の大口需要家に他ガス事業者への切替えが生じたこと、また、水道事業では節水意識の浸透や節水機器の普及とともに大きな口径の需要家への販売量の減少の影響により有収水量が減少傾向であったことなど、今後の経営への影響が想定される課題を認識しました。

※経常収支比率:当該年度において、営業収益や一般会計からの繰入金などの収益で、維持管理費や支払利息などの費用をどの程度賄えているかを表す指標。単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要。
$$\text{経常収支比率}(\%) = \frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$$

なお、普通会計に用いられる経常収支比率とは異なる指標です。

2. 主要施策の評価結果

ガス事業及び水道事業ともに、「A評価:十分に達成されている」と「B評価:概ね達成されている」の合計が90%を超える結果(ガス事業:92.3%、水道事業:96.9%)となりました。



- | | |
|-------|--------------------------------------|
| ■ A評価 | 類型Ⅰ:達成率80%以上
類型Ⅱ:施策目的が十分に達成されている |
| ■ B評価 | 類型Ⅰ:達成率60%~79%
類型Ⅱ:施策目的が概ね達成されている |
| ■ C評価 | 類型Ⅰ:達成率40%~59%
類型Ⅱ:施策着手段階 |
| ■ D評価 | 類型Ⅰ:達成率20%~39%
類型Ⅱ:施策検討段階 |
| ■ E評価 | 類型Ⅰ:達成率19%以下
類型Ⅱ:施策未着手 |

類型Ⅰ:計画目標に向けた取組み達成度を実績数値により評価する項目
 類型Ⅱ:計画目標に向けた取組み達成度を施策推進状況により評価する項目

3. 今後について

今後は、人口減少によりガス販売量及び有収水量の減少による収益減少の傾向が継続し、施設の更新などによる費用の増加を見込む中で、特に水道事業における経営状況は厳しくなるものと捉えています。

これらの将来課題については、今回の評価結果を活用しつつ、本計画の後継計画である「習志野市ガス事業経営戦略」及び「習志野市水道事業経営戦略」を推進する中で効率的な課題解決に努めてまいります。